



農協だより

Vol.85

URL : <http://www.ja-aki.jp>

平成 25 年 9 月

JA安芸切花品評会

7月27日阿戸支店にてJA安芸切花品評会が開催されました。

今年は梅雨明け後から好天が続き、病気が少なく、作物が順調に生育し、昨年に比べ出品点数が大幅に増加しました。

今年から阿戸町農事研究会野菜品評会も行われ、切花59点、野菜47点の出品点数となり、病虫害被害や市場性を考慮した結果、合計21点が入賞しました。

表彰式終了後、展示物の即売会が行われましたが、良質な物が多く、すぐに完売となりました。



上中野農事研究会視察

8月5日に上中野農事研究会が大崎上島の「フルーツセンター文田」等の視察をしました。しいたけの菌床生産を行っておられ、大阪市場をはじめ県内にも多数出荷されておられるとの事でした。その他岡本醤油醸造の醤油蔵も見学しました。

県内産の原料を使用する等、こだわりの醤油を生産されておられるとの事でした。



集荷のお願い!

今年も9月26日から平成25年産米の検査が始まります。出荷者の方々には買取価格が決まり次第、日程等必要書類を送付いたしますので、多数の出荷をお願いいたします。

農産物検査員技能確認会

8月5日に平成25年農産物検査員技能確認会が開催されました。9月から米穀出荷検査が始まりますがJA安芸では今年から1人増員し職員5人で検査を行います、その際同じ格付けをする技量を持ち合わせる為、毎年この時期に行われております。この確認会においてJA安芸の検査員は優秀な成績を収めておりますので、安心してたくさんの平成25年産米穀出荷をお願いいたします。



夏まき野菜苗出荷!

育苗センターでは、夏播き野菜の苗を8月19、20日にかけて、キャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの苗、約4,700鉢を各支店へ出荷いたしました。続いて、レタス・キャベツ、イチゴの苗を出荷いたしますので、よろしくをお願いいたします。



講習会を開きました!

- ◆稲作講習会 (8/5 畑賀・阿戸支店、8/6 上瀬野・瀬野支店、8/7 東海田・中野支店、8/8 熊野・中須賀支店、8/9 初神・新宮)
- ◆8/2 スミレ会講習会
- ◆8/6 瀬野女性部
- ◆8/7 中野野菜生産者会
- ◆8/8 ススキグループ
- ◆8/9 農業講座 (育苗センターにて)



安芸のやさしい農業講座

8月7日、坂町民センターで『安芸のやさしい農業講座』が行われました。受講者は19名おられ、12月に開催される農産物品評会の出品に向けて、秋播き野菜の栽培を中心に講習を行いました。また、出品に際して入賞しやすい農作物の荷作りや、姿作りを講習し、受講者には大変喜んでいただきました。



9月 営農メモ



水 稲

◎適切な水管理で、粒張りのよい米に仕上げましょう。

出穂後30日までは粒は肥大しており、早期落水は登熟歩合の低下や玄米の充実不足の原因になります。落水は出穂後30日をめやすとします。落水後も田面が乾き過ぎないように走り水をすると登熟に良い影響を与えます。

◎収穫適期

今後も気温は高めの予報になっています。それに伴い、成熟期が早まると考えられますので、「いつもどおり」「去年どおり」で刈取日を決めずに、稲作ごよみを参考に青刈率を確認して刈り遅れにならないようにしましょう。

◎籾の乾燥

適正水分14.5%をめざしましょう。

◎適正水分の確保

急激な乾燥は食味を落としますので1時間当たりの乾燥率を0.8%以下にしてください。

野 菜

9月上旬は年末～2月頃の収穫となるはくさいや12月取りのレタス、早生たまねぎ等の播種期となります。はくさいは遅くに播種すると結球しない事がありますので中旬までに播種しましょう。

下旬になると晩生たまねぎの播種期となります。早生、晩生とも早播きして寒さが来るまでに大苗になると抽苔しやすくなりますので注意してください。発芽後にネキリムシ等の被害が予想される場合播種前にダイアジノン粒剤5やガードベイトA等を処理しておきましょう。ねぎ類は発芽までに10～14日程度かかりますので乾燥させない様に適宜灌水しましょう。

圃場管理

8月～9月上旬は好天が続く圃場が乾燥すると8月に定植したキャベツ等がほう素等の要素欠乏症が出やすくなりますので、4～5日おきの灌水と定植後20～25日頃には追肥を行い充実した外葉を作りましょう。

だいこんも9月10日頃から播種できますが、この時期の作型は多くの方が栽培されているため、下旬頃にも播種し収穫期を分散させましょう。キスジノミハムシ等の被害が多いので播種前にダイアジノン粒剤5等を処理しましょう。(粒剤を使用した場合は間引き菜の利用はできません。)

病害虫

8月に降雨が少なかったためハスモンヨトウを始め害虫の発生が多くなっています。被害出始めにアフーム乳剤やオルトラン水和剤等登録のある農薬を散布しましょう。

丹波黒大豆について

現在、水稻の作況は平年並みの100～101と公表されました。黒大豆においても順調に生育しております。天候は、昨年比べ気温が高く暑い日が続いています。7月～8月の降水量は少なく、日照時間が多くなっています。開花始期は平年並みの8月上旬より始まりました。草丈は10cmぐらい高くなっています。これから残暑きびしいと言われておりますので、最後まで身体に気を付け、大豆の管理していただきたいと思っております。

管 理

灌水 9月の干ばつは落花、落莢、平莢(子実の太らない莢)の原因になります。多くの水分が必要な時期なので乾燥させないように畦間灌水を行います。(晴天が続けば7日に1回ぐらい夕方から夜間にかけて行う)日中に長時間滞水すると水温の上昇で根を傷めます。湿害を受けると10月頃に立ち枯れの原因になることもあります。

病害虫 防除は早期発見、早期防除が基本になります。

●シンクイムシ・カメムシ等

子実を直接食害する。着莢期から子実肥大初期が特に防除時期。10日おきに2～3回

●ハスモンヨトウムシ

茎・葉を食害する。今年は白化葉(幼虫が食害した葉)が、8月中旬から見られ増加しています。圃場によって違うので良く見回ってください。

①卵は5～7日でかえり、幼虫は普通6齢、ときには7齢を経て、24から28日で蛹になる。蛹の期間は11日から12日である。②成虫の寿命は11日から14日であり雌成虫はふ化の2～3日後から産卵を始め、平均1,600卵を産む。③多食性で、約30科、約100種の植物を食害する。特に発生が多い作物は、さといも、だいず、小豆、きゃべつ、白菜、トマト、いちごなどである。

●ハダニ

トレボン粉剤を使うと天敵が少なくなりダニの発生を助長することがあります。葉がうす黄色にかすり状になるのを発見したら葉裏を見て確認して発生初期に防除します。

●ウィルス病

モザイク病が発生して株が小さい物は抜き取り処分します。

●茎疫病・黒根腐病

土壌伝染性の立枯性病害で株ごと枯れます。抜いて見ると簡単に抜けるようになります。地際部が変色して褐変します。抜き取って処分いたします。